

TOPIC

10

4
7

期待を胸に 学校生活をスタート

町立小中学校等で入学式

町内の小学校と義務教育学校で入学式が行われ、新1年生40人が期待を胸に学校生活をスタートさせました。（白糠小18人、茶路小1人、庶路学園21人）

庶路学園では、齋藤超校長が「間違えることを恐れず、どんどん意見を出し合って、みんなで本当の答えを見つけてほしい」と新入生に呼び掛けました。

本間結里さんは「勉強するのが一番楽しみ」と笑顔で話し、母親の麻子さんは「いろいろなことにチャレンジし、自信が持てる子になれば」と話していました。



緊張した面持ちで並ぶ新1年生（庶路学園）



コロナ禍のため黙食でしたが、おいしそうに食べていました

TOPIC

11

4
8

給食が食べられてうれしい

白糠高校で給食開始

白糠高校魅力化プロジェクトの一環として、9日から給食の無料提供が始まりました。

今年度は、希望のあった生徒45人に中学校と同じ量の給食（1食225円）が提供されます。

初日となるこの日のメニューは、ビビンバ丼とわかめスープに三色サラダ。給食当番も生徒が行いました。高山倅輝さん（3年）は「小学生の頃に食べていた給食を思い出しました。とてもおいしかったです」と、久しぶりの給食を喜んでいました。

TOPIC

12

4
11

太鼓をたたいて町に元気を

陽向ぼっこ「和太鼓教室」

NPO法人陽向ぼっこ（儀同一義代表理事）は、本別義経太鼓保存会（藤川一三会長）を招いて、同所で「和太鼓教室」を開催しました。

3回目の開催となるこの日は、町内から4人が参加し、同保存会の会員たちと太鼓を打ち鳴らしました。

芳澤莉子さん（12歳）は「テンポが変わるところが難しいけれど、太鼓をたたくのは楽しい」と爽やかな汗を流していました。儀同代表は「太鼓をたたけば元気がでるし、認知症の予防にもなる」と話していました。



「お互いのイベントなどで共演したい」と話す参加者たち